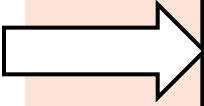


< 病害虫防除のポイント >

大豆の管理情報
裏面に続く



・ いもち病

昨年は、比較的被害は見られませんでした。圃場によっては、穂いもちにまで進展した圃場も見られました。
「出穂2週間前の粒剤施用と穂揃い期の液剤か粉剤の散布」もしくは、
「穂ばらみ期と穂揃い期の液剤、粉剤による2回散布」を実施しましょう！

・ ウンカ類

昨年は、飛来時期が早かったものの、大きな被害は見られませんでした。大分県の予察情報では、今年も平年より早い段階で、トビイロウンカの飛来が確認されています。
圃場を確認し、出穂期前後の基幹防除に加えて、状況に応じて防除を行いましょう！

・ カメムシ類

令和6年産は、カメムシ類の発生量が多かったことで、不稔米や斑点米が多くみられました。斑点米は収量、品質低下の要因となります。
穂揃い期とその7～10日後に広域的な一斉防除を行いましょう。

【防除時期】

生育ステージ		出穂 2 週間 前	穂 ば ら み 期	出穂 始 め	出穂 期	穂 揃 い 期	穂 揃 い 期 以 降
病害虫	防除体系						
				← 5～7日 →			
いもち病	1回目：粒剤 2回目：液剤または粉剤	○ (粒剤)				○	
	液剤または粉剤		○			○	
カメムシ類	液剤または粉剤					○	○ (1回目の防除の 7～10日後)
	粒剤					○	○ (1回目の防除の 7～10日後)
ウンカ類	基幹防除		○				○ (随時)

< 出穂期前後の水管理のポイント >

穂ばらみ期から出穂開花期は、稲体の水分要求量が最高となるため、3～5cmの湛水としてください。
※連続5日以上湛水状態にすると、土中の酸素が不足するため、注意しましょう。

